

第1部会体育研究部
佐倉市立間野台小学校 佐藤 太一
佐倉市立根郷小学校 菅野 澄斗

1 研究主題

仲間とかかわり合い、動きを高める体育学習
～わかってできた喜びを実感できる走り幅跳びを通して～

2 主題設定の理由

(1) 教職員の実態から

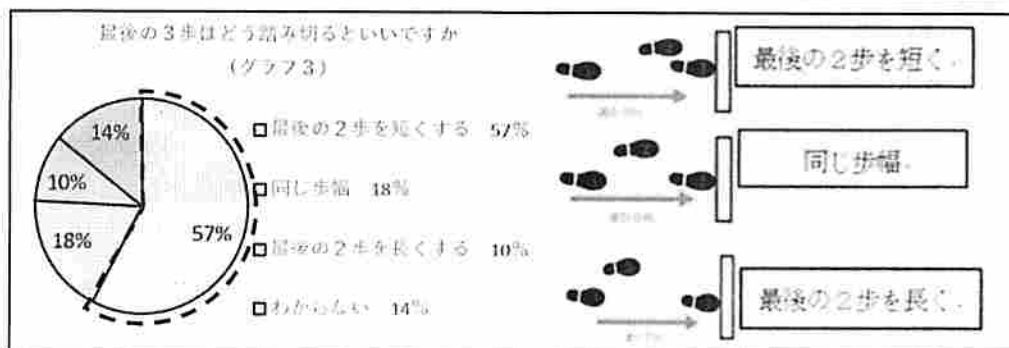
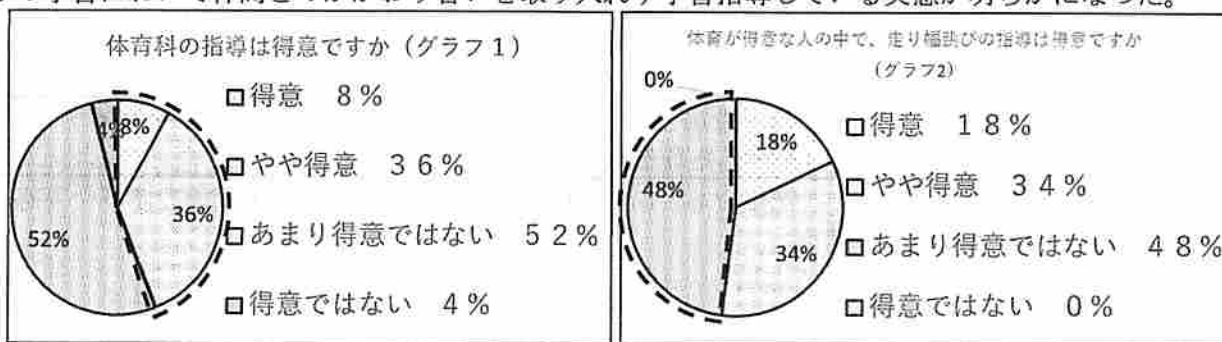
佐倉市・酒々井町の3年～6年生担任経験者（過去6年以内）221名を対象に走り幅跳びの指導についてアンケートを行った。

「体育科の指導は得意か（グラフ1）」という質問に対して、44%の教職員が「得意」「やや得意」と回答した。そのうち、走り幅跳びの指導を「あまり得意ではない」「得意ではない」（グラフ2）と回答した教職員は、48%と半数近くに及んでいた。このことから、体育科の指導が得意な教職員も走り幅跳びに対する指導に苦手意識が高いことが分かった。

「走り幅跳びの指導で難しいと感じることはなにか」という質問に対して、「局面に応じた場づくり」や「考えさせる場面」の回答が多く挙げられ「記録の向上のさせ方」と続いた。

技能ポイントに関するアンケートでは、「最後の3歩はどう踏み切るといいですか」という質問に対して、正答は、57%にとどまっており、正しい技能ポイントを捉えられておらず、正確な指導ができていないことが分かった。（グラフ3）

これらの調査結果から、走り幅跳びの指導において局面に応じた場づくりの仕方や考えさせる場面など多岐にわたって難しさを感じていることが分かった。局面によっては、正確に技能ポイントを捉えられていないまま学習を行っている教職員が多いことが分かった。小学校学習指導要領体育科改訂の趣旨及び要点では、運動や健康についての課題の解決に向けて、児童が他者との対話を通して、自己の思考を広げたり、深めたりするなどの対話を促すことと明記されている。しかし「走り幅跳びの学習のとき、どのような学習形態で指導していますか」という質問に対して、41%の教職員が個人学習と回答していた。このことから、半数近くの教職員が、走り幅跳びの学習において仲間とかかわり合いを取り入れず学習指導している実態が明らかになった。



(2) 児童の実態から

佐倉市・酒々井町の3～6年生児童3756名にアンケートを行った。

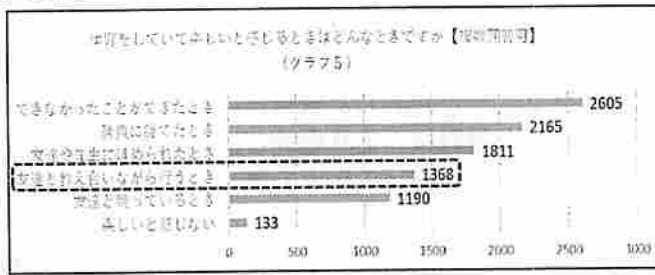
「陸上運動（短距離走・長距離走・ハードル走・走り幅跳び・走り高跳び・リレー）は好きですか」

の質問に対して、「とても好き」「好き」という回答が72%、「走り幅跳びは好きですか」の質問に対して、「とても好き」「好き」という回答が61%であった。このことから、走り幅跳びに対して半数以上が好意的に捉えていることが分かった。

しかし、「踏み切りの仕方」や「踏み切ったときの目線」など、教職員と同様の技能ポイントに関する質問では、走り幅跳びにおける正しい知識を身に付けている児童は30%にとどまった。

「陸上運動をやっていて楽しいと感じるときはどんなときですか」という質問に対して、「記録が伸びたとき」と回答した児童が2830人（全体の約75%）で（グラフ4）、「体育をしていて楽しいと感じるときはどんなときですか」という質問に対して、「友達と教え合いながら行うとき」と回答した児童が1368人（全体の約36%）だった（グラフ5）。体育科の学習において、自己の成長に対して喜びを感じる児童が多い反面、仲間とのかかわり合いを通して成長していくことに喜びや楽しさを見出せていないことが分かった。

以上のことから、走り幅跳びという個人で取り組む競技において、仲間とのかかわり合いを通して、記録の伸びを実感することができれば、より意欲的に取り組むことができるのではないかと考えた。そこで、本研究では研究主題を「仲間とかかわり合い、動きを高める体育学習～わかってできた喜びを実感できる走り幅跳びを通して～」とした。



3 研究仮説

仮説1

仲間とともに考え・やってみる場を工夫すれば、局面ごとのポイントを理解し、技能が向上するだろう。

- 手本となる動画を見せ、正しい動きのイメージをもたせたり、話し合ったりすることで、技能ポイントを理解させる。
- グループで走り幅跳びの技能ポイントにつながる、技のコツやオノマトペ集を作ることで、技能ポイントを理解させる。
- グループで見る視点が焦点化するワークシートを使って教え合い、課題に合う場で取り組むことで、知識及び技能を身に付けさせる。

仮説2

グループごとの目標数値を設定したゲームを取り入れれば、集団の伸びを実感するようになり、多くの児童が喜びを感じられるだろう。

- 単元の始めに計測した記録をもとに、目標を設定し、仲間や個人の記録の伸びを実感することで意欲の向上を図る。

4 研究計画

| 時期 | 研究内容 |
|----------------|---------------------------------|
| 【令和5年度】 | |
| 4月 | 研究の方向性についての検討 研究主題検討 |
| 5月 | 研究主題決定 研究計画立案 実態調査項目検討 |
| 6月 | 実態調査項目決定 実態調査 研究計画決定 研究仮説の検討 |
| 7月 | 実態調査集計および考察 研究仮説決定 理論研究 |
| 8月 | 紙上提案 授業内容検討 |
| 9月 | 授業内容決定 |
| 10～3月 | 体育主任への授業内容の説明（10月） 授業実践 実践データ集約 |
| 【令和6年度】 | |
| 4～5月 | 授業実践の考察 |
| 6～7月 | 研究のまとめ 提案資料作成 |
| 8月 | 研究発表 |